

2024年10月23日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業  
終了時活動報告書 (2023 年度採択案件)

1. 業務の概要	
(1) 案件名	福岡国際子ども食堂&居場所
(2) 実施団体名	一般社団法人福岡国際市民協会
(3) 実施期間	2023 年 11 月 1 日から 2024 年 10 月 31 日まで
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	福岡県福岡市
(6) 活動概要	<p>①活動の背景： 福岡市には現在約 4 万人外国人が在住している。その内、約 43%は 子育てしている永住者・技人国・家族滞在・日本人配偶者という 中長期在留資格者である。日本で親のサポートや子ども教育の経験 がない外国籍保護者は子育てや子どもの教育がとても困っている。子どもの宿題が見られない、子どもは母国語が理解しないと言った 心配事が多き。母国から遠く離れた日本での生活に孤独や不安を感じている子ども などへの温かい食事の提供に加えて、学校での学習を支援したり、将来日本と母国の架け橋になるため母国文化・言語を教えたりして、外国籍保護者間学び合い、交流できる国際家族の居場所づくりを行う 福岡市在住外国人の中で中国の次にベトナム人(約 7000 人)と ネパール人(7000 人以上)が多いが、支援しているところがない ため、本事業の対象者とする。その事業で残されている子どもを減らし、外国籍保護者が安心して、日本で働けるようになる。</p> <p>②活動の目標： ・福岡市在住ベトナムとネパールにルーツを持つ子どものための学習 や母国語教育を支援するため ・福岡市在住ベトナム人とネパール人の保護者に学び合い、交流できる場を提供するため</p>

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

#### ・子ども食堂・居場所

- 実施期間：2023年11月1日から2024年10月31日まで
- 実施回数：ベトナムグループ 48回、ネパールのグループ 48回 合計 96回
- 実施内容：

14時～15時 学習支援・日本語指導

15時～16時 母国語教室（土曜日 ベトナム語、日曜日 ネパール語）

16時～17時 英語

17時～18時 体験時間（ダンス、調理、図工、探究学習等）

18時～19時 親子の食事・交流

（例）5月のスケジュール

福岡市・JICA九州の助成事業  
協賛：りあん様

#### 5月福岡国際子ども食堂&居場所の開催

分からない宿題や学びのないことを地域のの方に教えてもらい、子ども同士で色々な国の遊びや家庭料理を体験し、新しい文化・言語・観点を理解してみませんか。

- ◇ 対象者：18歳未満の子ども（国籍問わず）
- ◇ 場所：築地（福岡市博多区御供所町3-17-5）
- ◇ 利用料：子ども 無料 大人 食事代500円



#### 5月のプログラム

日時	14:00-15:00 学習支援	15:00-16:00 母国語教室	16:00-17:00 自由	17:00-18:00 体験活動 (異文化理解、探究学習など)	18:00-19:00 夕食
5月4日(土)	宿題、日本語指導	博多どんたくパレード参加	移動	みどりの日	バイキング
5月5日(日)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	自由遊び	こどもの日	日本料理
5月11日(土)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	劇・ダンス	母国語作文コンクールの発表会	バイキング
5月12日(日)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	自由遊び	母の日	イタリアン料理
5月18日(土)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	劇・ダンス	インドネシアについて	バイキング
5月19日(日)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	自由遊び	オランダについて	オランダ料理
5月25日(土)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	劇・ダンス	フィリピンについて	バイキング
5月26日(日)	宿題、日本語指導	英語、ベトナム語、ネパール語	自由遊び	アメリカについて	アメリカ料理



お申込み

- 参加人数（1回の参加者は親子30人程度×月3～4回実施）

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ベトナム	72人	66人	64人	80人	60人	132人	135人	133人	131人	127人	126人	128人
ネパール	64人	70人	66人	62人	58人	70人	65人	63人	69人	52人	49人	63人

☆ 2024年4月から、ベトナムグループの活動の時間に日本の親子や他の国にルーツを持つ親子も参加するようになった。

#### ・親子向け交流会・勉強会

2023年12月23日 子育て・子ども教育の意見交換・クリスマス交流会 参加人数 約40人

2024年2月3日～5日 アジア旧正月（文化体験・文化発表） 参加人数 約1000人

2024年3月3日 防災勉強会 参加人数 約70人

2024年7月13日 進学相談会 参加人数 約40人

2024年9月7日・8日 2024 International Mid-Autumn Festival（継承文化発表、文化体験）参加人数 約4000人

## (2) 実施成果：

### ・子ども食堂・居場所

- 子どもにとっては楽しい交流場・安心できる居場所になった。
- 保護者にとっては気軽に相談できる場になった。
- 学習支援が必要な子どもは自分で学習できるようになり、分からない時他の人に聞けるようになり、進学意識が高まった。
- 日本語指導が必要な子どもは日本語でコミュニケーションが取れるようになった。
- 母国語教室を受けた子どもは読み書きに自信を持つようになった。
- 朝日新聞等にモデルの取り組みとして紹介され、外国ルーツの子どもの課題や支援のあり方が全国に知られた。
- ベトナムの新聞も取材され、海外にいるベトナム人にとって重要な取り組みとして紹介された。
- 約 20 人の講師・ボランティアが関わって、他の活動にも関わるようになった。

### ・親子向け交流会・勉強会

- 参加した保護者間、子どもの多言語習得方法について情報共有できた。
- 参加した保護者が就学・進学・防災について役に立つ情報を知ることができた。
- 参加した親子が国際交流でき、母国の文化を大事にできた。
- 多くの研究者と他の外国人支援団体と連携して、活動できるようになった。

### ・事業運営の強化や活動の展開

- 伴走支援のお陰様で、事業運営に関する知識が高まった。
- JICA の助成の実績があるため、休眠預金に助成されるようになり、活動が広がり、新展開もできるようになった。

## (3) 得られた教訓など：

どんな子どもも来ていいなので、様々な年齢や能力、来る目的の子どもが集まった。それぞれのレベルに合わせて指導するのが苦労した。特に 2024 年 4 月以降、学習より居場所のために来た子どもが多く増加してきた時、集中して指導するのが難しかった。しかし、遊び部屋と教室の部屋を分け、保護者や上のレベルの子どもに協力してもらうことでお互いに勉強になり、指導ができるようになった。また、発達障害が思われる子どもと関わるのがはじめてだったので、非常に悩んでいた。同じような発達障害持ち子どもを持つ保護者や保育士、医者、所管の部署、該当子どもの保護者と相談しながら、専用の見守り者を付けたり、その子に興味があることから必要なことへ少しずつさせてきた。その結果、その子どもの行動が良くなり、他の子どもと一緒に行動することが増えてきた。子どもと話し合いながら、子どものニーズと能力に合わせて指導するのが大切だと分かるようになった。

#### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

今までと変わらず活動を継続していく。そのため、ボランティアを募集し、外部講師へ依頼する場合は自己資金で謝礼を払う予定である。しかし、利用する子どもの人数が多くなったため、管理の問題が出てきた。従って、今後、土日は小さい子どもを持つ保護者と未就学児に居場所、教育支援、気軽に相談できる場を提供し、小中高生と他の保護者は平日開催される多文化共育スペースにて相談から学び機会を提供し、進学・就職に繋げていき、自立支援を行う。来年度の活動の運営費のため、子ども食堂&居場所はWAMの助成金を申請し、多文化共育スペースは日本財団の助成金を申請した。多文化共育スペースを利用する時、送迎や食事が必要な子どもは実費徴収を考えている。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

福岡国際子ども食堂&居場所を利用したことがある子どもは誰もまた来たがっている。親が連れて行けない時、とても悲しいと保護者が言う。「ここに友達がいて、色んな勉強ができ、美味しいご飯もあるので、週2回来たい」と久留米市から来た子どもが言った。そして、一人の親や日本語があまり分からない保護者もよく来て、交流したり、仕事や子育てについての情報を共有したり、理解できない手紙を聞いたりした。日本には図書館や市民センターなど公共施設が多いが、外国ルーツの子どもと保護者が言葉・文化の壁であまり行けていないので、福岡国際子ども食堂&居場所に来た外国ルーツの親子と一緒に公共施設へ利用しに行き、利用の仕方を練習した。今後、自分たちで行けるようになると思う。

#### (2) 活動の写真



(学習支援の様子)



(英語の時間)



(ネパール語の時間)



(体験の時間)



(保護者の交流)



(防災の勉強会)

### (3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

講師料を払う資金が有って、講師が継続して活動に参加しやすくなり、責任をもって活動に関わっていただけました。講師の都合で授業がないことがなく、毎回子どもたちに学ぶ機会を提供できた。また、伴走支援を付けて頂くことで企画のプッシュアップでき、事業の運営や団体の整備についての知識が高まった。更に、JICA の助成の実績があることで団体の信頼度が高まり、利用者が多くなり、他の助成金の採択に繋がった。

以 上